国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

OUIK Newsletter

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS
Institute for the Advanced Study of Sustainability

Vol.3 No.1
2014年6月28日発行

新生OUIK始動

国連大学サステイナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
(UNU-IAS OUIK)
所長　渡辺 綱男

こんにちは、OUIK所長の渡辺綱男です。新緑が眩しく石川の自然が輝く季節となりました。OUIKの上部組織である国際連合大学サステイナビリティ高等研究所も5月12日のローマにおける第61回 理事会で組織改編と名称変更が正式に承認され新たな体制が確立されました。そしてタイミングを同じくしてOUIKにも新しいスタッフが2名着任し、名実ともに新体制で新年度のスタートを切ることとなりました。

まず新しくOUIK事務局長として永井三岐子が4月21日に着任いたしました。永井は国連大学 地球環境パートナーシッププラザで気候変動や生物多様性などグローバル課題とされる研究と市民活動をつなぐプログラムアソシエイトとして勤務した後、国際協力機構と科学技術振興機構による気候変動への適応研究プロジェクトのコーディネーターとしてタイ・バンコクに5年駐在いたしました。石川県金沢市の出身ということで地元に貢献する意欲満々です。

そして主に里山・里海プロジェクトを担当するリサーチアソシエイトとして飯田義彦が5月26日に着任いたしました。飯田は京都大学大学院地球環境学舎博士課程在籍中に、世界遺産吉野山ヤマザクラ植栽林総合調査、滋賀県朽木のトチノキ林の文化・生態調査、京都市のまちの将来像策定業務、京都市生物多様性地域戦略策定に貢献する研究事業などに参画し、地域固有の資源評価から行政計画の策定支援などに携わってきました。現場での実測、観測、観察などの研究手法を生かし、地域の抱える課題解決に実質的に貢献していきたいと考えています。

今年度は10月に生物多様性条約第12回締約国会議(COP12)が韓国ピョンチャンで開催されます。OUIKでは「里山・里海」、「都市と生物多様性」、「持続可能な農林水産業」の3つの研究成果を世界に向けて発信すべく皆様とも密に連携をしながら活動の充実に努めたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

OUIKの活動目的

1. 持続可能な社会づくりを目指し、地域のパートナーと協働しつつ、国際社会が取り組む研究活動に対し地域レベルの視点から貢献していく。
2. 国際動向に関する最新情報を共有しつつ、普及啓発・人材育成活動を通じ、地域の多様な関係者との対話を進めネットワークを構築していく。

里山・里海 ：2014. 2.11 公開セミナー「世界から見た能登の里山里海」

国連大学では能登地域における生態系サービスのシナジーとトレードオフ評価に関する研究（京都大学及び金沢大学との共同研究）やOUIK里山・里海研究チームによる評価活動など、能登の里山里海を対象に様々な研究を行っています。2月10 ～ 11日の間、世界各国で里山里海的景観（SEPLS：社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ）の研究を行っている研究者が集い、能登の里山里海の生物多様性や生態系サービスの状況、課題などについて情報を共有するため国際ワークショップを開催しました。その一環として公開セミナーを開催し、能登における研究の近況と併せて、国内外の里山里海の共通点や相違点、課題や研究の方向性などを国際的な観点から発表しました。

一つ目の基調講演では**Henrik Moller氏（Otago大学、ニュージーランド）**が科学と伝統的知識の融合、政策立案者と消費者が参加して作り上げる持続可能なSEPLS共同管理の指標について紹介しました。2つ目の基調講演では**Pia Kieninger氏（BOKU大学、オーストリア）**が、オーストリアにおいても「文化的森林」と呼ばれ人間の生産活動によって生物文化的多様性が保たれている森林があることを挙げ、日本の里山との比較論を発表しました。続くセッションでは地元能登の事例紹介として**多田喜一郎氏（春蘭の里実行委員会）**が、地元農家を宿泊先とし里山里海の景観だけでなく農業体験を観光客に提供することで地域の活性化に成功している事例を紹介しました。実地経験に裏付けられた発表は、セミナー参加者に同氏の地域づくりへの暖かくそして強い意欲を印象づけるものでした。**柳井清治氏（石川県立大学）**からは、九十九湾沿岸部の森林地域に生息し海と森を行き来するアカテガニ（陸蟹の一種）の生態を報告、持続的な生態系管理のためには海と森を分断せず、統合的に管理していくことの重要性が強調されました。

（左上から時計回りに）Moller氏、Kieninger氏、柳井氏、多田氏

パネルディスカッションでは聴衆の方々からも、「客観的なデータは地域コミュニティにとっても重要な情報である」、「国内外の成功事例をもっと知りたい」、「海外の研究者と一緒に議論できる機会は貴重」、「あらためて里山里海の定義を知りたい」等の質問、コメントが寄せられました。

セミナー全体の議論を通して、里山里海の保全回復の取り組みが持続性を持つには単に生物多様性保全の観点からではなく、その地域の営み全体を内包し発展させてゆく生物文化多様性を再生する視点が重要であると結論づけられました。そして里山里海のコンセプトや取り組みが世界的な広がりをもってゆくためには、関係者が一緒にデザインし協働していくことの重要性が確認されました。また能登地域には里山地域とそれ以外の地域をつなぐような地域主導の取り組みがあり、世界的に見ても重要な事例が多数存在することが、あらためて認識されました。

都市と生物多様性 ：2014.3.1 公開シンポジウム「グローバル化の中での金沢の食と生物多様性～地域の未来を金沢の食に託せるか？～」

OUIK「都市と生物多様性」研究チームは、金沢の食から見た生物多様性とグローバル化の中でそれらがどのように変化し、どのような可能性があるかを議論するため公開シンポジウムを開催しました。

冒頭の挨拶で **宮本伸一氏（金沢市環境局）**は、金沢の魅力は自然環境によって育まれてきた伝統文化や食文化であり、その文化をさらに洗練させていくためには、金沢の自然と食文化の関係をしっかりと理解しておくことが重要であると指摘されました。

（左上より時計回りに）青木氏、榎本氏、雅珠香氏、井村氏

まず**青木悦子氏（青木クッキングスクール）**が、「豊かな自然の恵み-金沢の食文化-」として基調講演し、石川・金沢の伝統的食文化について紹介し、それらを次の世代に受け継いでいくことの重要性を強調しました。

続くパネルディスカッションでは 食品学の専門家とし**て榎本俊樹氏（石川県立大学）**、生産者の立場から**井村辰二郎氏（株式会社金沢大地）**、消費者・食べ手の立場から**雅珠香氏（一級フードアナリスト）**が、青木氏に加わり登壇しました。金沢の食文化は、加賀野菜などの素材だけでなく器や盛りつけ、料亭などで見られるホスピタリティなど食の周辺情報を付加価値として消費するレベルの高いものであることが指摘されました。一方で、グローバル化が進む中で生産地と消費地の役割が分かれてしまっていることも問題意識として共有され、生産者と消費者をつなぐしくみ、そして加賀野菜などの科学的な特徴も含め生産物の長所が調査研究され、しっかりと情報発信できる状態になっていることの重要性も示されました。最後に同研究チームを率いる**敷田麻実氏（北海道大学）**が、金沢の食文化は先人が積み上げてきた知恵であり、地域の財産でもあるが、研究者・消費者・生産者が一体となって「現代の食文化」を創造し、それを地域環境の保全に繋げていくことを重要視していると説明し、本シンポジウムが、「生物文化多様性」による地域政策について考えるきっかけとなることを期待したいと述べ、閉会しました。

持続可能な農林水産業 ：2014.3.10 公開セミナー「能登地域における持続可能な農林水産業に関する研究と今後の展望」

OUIK「持続可能な農林水産業」研究チームでは、農村地域が直面する高齢化、人口減少、グローバル化による競争力の低下などの課題に応えるため、地域に根ざした調査研究を行い政策提言につなげるとともに、能登の取り組みを国際的に発信することを目指しています。特に世界農業遺産の認定が能登地域の一次産業活性化に与えた影響や今後の地域活性化への貢献に注目しており、2014年3月に開催した公開セミナーでは2013年度の研究成果を発表しました。

まず研究チームリーダーの**永田明氏（UNU-IAS）** より 、日本、中国、韓国から農業遺産の専門家を招いて2013年5月にOUIKが金沢で開催した「アジアの世界農業遺産サイトにおける経験と教訓」のワークショップ、同じくOUIKが共催して8月に韓国で開催された「持続可能な農業遺産の管理にかかる国際ワークショップ」などをもとに、10月に北京で日中韓による「東アジア農業遺産学会」が発足したとして、今後世界の農業遺産研究にかかる情報交換やネットワークが益々活発になることが期待されると紹介されました。

続いて**Chen Bixia氏（琉球大学、前OUIK）**より、能登の里山里海の保全を通して得られた地域の環境的レジリエンス（変化に対応する力）、多様な主体参加を旨とするニューコモンズアプローチを取り入れた社会的レジリエンス、新しいビジネスモデルの創出などの経済的レジリエンスの３つの側面から検証した結果が報告されました。

後半のパネルディスカッションでは**中村浩二氏（金沢大学）**の司会のもと、**角章子氏（穴水町地域づくり協議会）**、**多田寛子氏（春蘭の里）**、**藤田繁信氏（JA おおぞら）**、**奥本勉氏（石川県環境部里山創成室）**に参加いただき、それぞれの立場からの取り組みなどについて議論していただきました。どの登壇者からも共通に、世界農業遺産の認定により地元コミュニティーの自発的な取り組みが促され、それらがさらに新しい動きの原動力となっているという好循環が生まれていることが指摘されていたのが印象的でした。

（左上時計回りに）中村氏、角氏、多田氏、藤田氏、奥本氏

パネルディスカッションのコメンテーターとして参加する（左から）Chen氏、永田氏

OUIKニューストピック

谷本知事、山野市長を表敬訪問 (2014.4.30)

今般のサステイナビリティ高等研究所への組織改編と新スタッフ着任報告を兼ねて、武内国連大学上級副学長、竹本サステイナビリティ高等研究所所長、渡辺OUIK事務局長による谷本石川県知事、山野金沢市長への表敬訪問が行われました。谷本知事とは、COP12などの国際的な発表の機会を見据えた石川県と国連大学の更なる関係強化について、山野市長とは金沢市との研究面での連携強化につき意見交換を行いました。

（左より）渡辺OUIK所長、竹本UNU-IAS所長、武内UNU上級副学長、谷本知事、永井OUIK事務局長、坂口UNU 秘書官

里山国際会議に参加 (2014.5.1-3)

「里山・社会生態学的生産ランドスケープにおける伝統的な知恵を活かした持続可能な発展」が石川県小松市サイエンスヒルズこまつにて開催されました。金沢大学とカナダ天然資源省の共催によるこの会議には、国連大学から武内和彦 上級副学長 による基調講演を始めとして、齊藤学術研究官が能登半島での 生態系サービスのシナジーとトレードオフ評価に関する研究成果を発表するなどのインプットを行いました。普段あまり聞く機会のない北欧や島嶼国の伝統的知識に関する発表など、大変興味深い議論と活発な情報交換が行われました。

（左２人目より）Mammadovaプログラムサポートアシスタント、宇都木プロジェクトアシスタント、Yiuリサーチアソシエイト、須藤プログラムアソシエイト

白米千枚田田植えイベントに参加 (2014.5.18)

OUIKは一口オーナーとして千枚田の保存を応援しています。世界農業遺産「能登の里山里海」サイトを象徴するこの棚田は、一枚一枚が小さく、全ての作業を人の手で行う必要があります。5月に行われた田植えイベントにはチームとして参加しました。田植えは初めてというスタッフがほとんどでしたが、五月晴れのもと波の音を聞きながらの作業は大変気持ちのよいものでした。県外からのオーナーさんや企業からの参加も多く約400人の方が田植えに参加されたようです。主催の輪島市観光課の皆様、お世話になりました。

スタッフ紹介

永井三岐子（ながいみきこ）

金沢生まれ金沢育ちですが暮らすのは20数年振りです。高校まで過ごした町が美しく変っているのに驚き、また業務を通して能登地方、加賀地方の里山里海を知るにつけ自分の故郷がこんなに豊かで美しいところであったかと発見と感動の毎日です 。微力ながら、石川、金沢の魅力と取り組みを国際社会に発信するお手伝いが出来ればと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

発行：2014年6月28日
国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット（UNU-IAS OUIK）
〒920-0962 石川県金沢広坂2-1-1 石川県政記念しいのき迎賓館３階
Tel:076-224-2266　Fax:076-224-2271
Email: unu-iasouik@unu.edu
http://ias.unu.edu